

2024(令和6)年

sh in koh

心耕 8月号

炎天下で、テニスをしているシニアがいる。
マケテハイラレナイヨ

しんこう

西光寺日報

今日の行事

・ 歓喜会(盆会) 予約不要です

十二・十三・十四日

午前六時半〜 / 午前十時〜 / 午後一時〜

法話・任取

・ 草取り 十八日(日) 午前八時〜

暑さに気をつけて!

・ 寺カズ 十七日(土) 午前十時〜

レジンアクリルセサリ作り

・ ヨガ 六・二十日(火) 午後一時〜

毎回千円・夏バテに!

・ お朝事 毎朝六時半

朝から内臓を動かしましょ

・ お寺の臨海学校 五・七日

西光寺から十六名参加 茨城県阿字浦

探しています。四月三十日に張込の方

四月三十日に、国分寺各西郵便局で張込をされた

方の中に、無記名の方がいます。多額書かきた届

いて、こちらに連絡を下さい。

以前こんな質問を受けた。

「取場に幽霊が出ます。話かり

た方がいいですか。」と聞かれて

「是非話かけて下さい。それを親

しけに」と答えた。

「幽霊を他け物と考えたら他け

物に、友達と考えたら友達になる。

認識が変われば世界は変わる。

ある日、こんな質問を受けた。

「老いは嫌です。どうしたらいい。」

私はある映画を勧めた。「旅情

という映画だ。ベニスを訪れた中年

女性が若い男と恋に落ちる。

が、年齢を理由にとまどう。ホテル

のフロントに「年を取るの嫌ね。」

というフロントは「年齢は財産

です。」と返した。

認識が変われば世界は変わる。

お盆のご案内

お寺での法要の部

日にち：12日(月)、13日(火)、14日(水)

時間：6:30～／10:00～／13:00～ *予約不要です

法話：毎年お願いをしていた小笠原先生が急遽来れなくなったので住職が頑張ります

家庭参りの部

すでに7月号に返信用はがきを同封し、お盆の家庭参りを受け付けています。まだハガキを出していない方は早めに出していただくようお願いいたします。また、電話でも受け付けておりますのでお申し込みください。若住職ひとりでお参りをしていますので、多少の時間の前後や日程調整お許しください。

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半～七時、お勤めをしています。日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・草取り

十八日(日) 八時～九時 是非ご助力を！

・写経会

休み

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 休み

婦人会 休み

・探しています！四月三十日振込の方！

四月三十日に、国分寺台西郵便局にて振り込まれた方で、氏名が無記名の方がおられました。記名の方は既に受領証をお届けしています。未到着の方は連絡を下さい

・Youtube 西光寺チャンネル新作配信

新作節談を八月上旬に配信予定
QRからどうぞ！



・はじめてのヨガ

六、二十日(火) 十三時～ 毎回千円
ヨガマット持参 予約不要

・みんなの寺カフェ

8月17日(土)
みんなの寺カフェ 10:00～12:30
レジンキーホルダー作り

講師 NH_style 師

内容 レジンキーホルダー作り
日時 八月十七日(土)

満席です。午後から、定価にてレジンキーホルダー作り(九百円)とプリザーブドフラワー体験(四百円)が可能です。
ご希望の方は西光寺まで連絡を

・求む！風呂釜をお持ちの方

九月三十日にお茶会を行います。(別紙参照)そこで、風呂釜をお持ちの方は、貸していただけないでしょうか。連絡をお待ちしております。

求道

「求道」をどう読むか
によって、宗教が変わります。「キユウドウ」と読むとキリスト教、「グドウ」と読むと仏教です。



力を抜いた方が
バットを速く
振れる

修行者

キリスト教の「求道」は、キリスト教を信仰したいと考えている、洗礼前のことを指します。

仏教の「求道」は、仏道を求めていくことを指します。仏道を求めるとは、仏となり、人々をすくうということです。例えるならば、自らが太陽となって、あたりを照らし暖める様なものです。自らが仏となるかどうか、「キリスト教」や他の宗教との大きな違いです。

この「求道」は、お盆参りで読むことの多い『讚仏偈』に出てきます。『讚仏偈』とは、阿弥陀如来が仏となる前に、師を讃え、覚悟を誓われます。供養一切斯等諸仏不如求道堅正不却

(すべての仏方に供養するよりも私が阿弥陀仏になる道を、ひるまずに歩む方がよりいいものとなります。)

讚仏偈

梵文意訳作法付



しみを味わおうとも、皆をすくうために
阿弥陀仏となると誓われて終わります。
お盆参りで是非探してみてください。

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を
紹介しています。

功德

お釈迦様は悟りを開かれた後、これを人々に説くか
どうか迷われました。そして



て、梵天というインドの神様が要請をして、伝道が始まりました。戒律を守り、行を修め、徳を積ませました。これを「功德」といいます。この功德の方向性が変わっていきます。

お釈迦様が入滅されて数百年後、出家者を支える在家の人々のための仏教が生まれました。大乘仏教といえます。行者が積み上げた功德を他へ振りむけるようになります。その極地が、阿弥陀仏の本願力です。自らの功德をどのようなことがあっても伝えると誓われています。お盆参りで読む『重誓偈』に出ます。『重誓偈』とは、阿弥陀仏の誓いの要点が説かれています。為衆開法蔵広施功德宝

(人々の為に教えを説き明かし功德の宝を広く施そう)
我至成仏道名声超十方究竟摩所聞誓不成正覚

お家で読もう
て仏とはならない
浄土真宗が念仏を大切にしている理由はここから



重誓偈

梵文意訳作法付

きています。

「浄土真宗とお茶」を楽しむ会



西光寺婦人会壮年会主催

仏教と関係が深い「お茶」に着目した勉強会(交流会)を、下記のとおり開催
することとなりました。

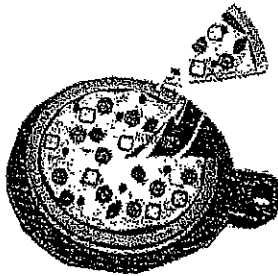
より身近に浄土真宗を感じていただけるよう、抹茶を楽しみながら、浄土真
宗と茶道とのつながりや、お茶の歴史などに触れてみませんか？

多くの皆様の参加をお待ちしております！！

開催日 令和6年 9月30日(月)

時間 10:00~11:45 勉強会 お茶会(上品な菓子付)

※椅子席で行います



12:00~ランチ交流会 (若住職手作りピザ等)

講師 常圓寺住職 井上 敬信 所 こぎやぶのうちりゅう ※古儀 藪内流

会場 西光寺

参加費 1,000円

締切 9月12日まで。定員に達し次第締切ります。

※風呂釜
お持ちの方
連絡を
下さい！

一切り取り線

お茶会 申込書 氏名 _____

電話 _____

仏教を0から学んでみませんか!

浄土真宗はじめの一步 第4期生募集!

浄土真宗の基礎を知りたい、家でお経が読めるようになりたいという方におすすめの、1年をかけて基礎を学ぶ講座です。仏教に今まで触れることが無かった、1から学びたいという方を対象にしています。全10回の講座を予定しています。

内容：仏教・浄土真宗の教えの基礎
作法
読経（正信偈を中心に）
みなさまのアンケートを参考に

参加要項

参加資格：どなたでも

参加費：1000円（申込時か初回時、テキスト代として）

時間：13:00~15:00

備考：全10回中、8回以上の出席で卒業です。
都合がつかない方は補講も致します。

連絡先：西光寺 0436-22-7412

	日にち			日にち
第1回	10/12 (土)		第5回	5/12 (月)
第2回	12/12 (木)		第6回	6/12 (木)
第3回	2025/2/12 (水)		第7回	7/12 (土)
第4回	3/12 (水)		第8回	9/12 (金)
第5回	4/12 (土)		第10回	10/12 (日)
			卒業式	11/23 (日)

----- 切り取り線 -----

はじめの一步申込用紙

氏名

連絡先

他方国土諸菩薩衆 『大経』二十八

阿弥陀仏

ここからは我が名字を聞く他方国土諸菩薩衆が中心になります。十七願の間接的利益です。また聞くや聞こえる姿勢は既にその方向に向いている事を意味します。菩薩衆というのは、前にも申しましたが、仏道に顔を向けた人々を言い、出家在家に拘りません。この出家在家に拘らないのが親鸞聖人の「非僧非俗」の生き方です。どちらかという気持ちは俗よりです。一般庶民と同様に家族生活を全うした点で在家仏教なのです。当時、貴族や坊主や武士等が教養として和歌をたしなめています。聖人には一つも作られた和歌が確認されていません。それは庶民である御同朋を大切にしたらからだと思えます。

南無阿弥陀仏 なんまんだぶ なまんだぶ

さて四十一願は聞けばそのまんま仏に成ると願われています。二十二願の前段部分と重なるようです。そして四十二願は名字を聞いた人は全員清浄解脱三昧を得て諸仏を供養するとあります。二十三・二十四願の諸仏の供養や供養の道具と重なります。三昧自体が供養となります。また四十五願の普等三昧と対称と成っています。清浄解脱三昧とは精神統一又は煩惱を離れた禅定のことです。因みに普等三昧とは普く等しく諸仏を見

ることです。親鸞聖人は念仏三昧と表現しています。

四十三願は名字を聞いて寿が終わった後に尊貴の家に
行くとあります。寿が終わった後と言うのは、死後のこと
ではなく前念命終の事でもあります。聖人は「本願を信受
するは前念命終なり」といい信心を獲得と同時に正定聚
の位に入るとしています。正定聚の位に至れば必ず如来
の家に至るのです。また聖人は「初地を得をわるを如来の
家に生ず」と言っています。源空聖人も「涅槃の城には信
心を以て能入とす」と言っており、それを聖人は「正信偈」
で「速入寂静無為楽 必以信心為能入」と謳われていま
す。続いて四十四願は名字を聞いて踊り歡ぶようになり、
菩薩の行により徳本を得るとあり、三十三願と関係して
います。菩薩の行とは二十二願で除外された菩薩が念仏
しながら人々の悩み等に随順していく生活のことで、還相
回向の利他行に成ります。四十七願では十一願を導く
「我が名を聞けば不退転になる」として最後の四十八願
の大悟して無生法忍を得られるのです。親鸞聖人は「与
韋提等獲三忍」と謳われています。また四十七・四十
八願は『大経』下巻の初めの十一願十七願十八願の成
就文と重なるようです。

南無阿弥陀仏 なんまんだぶ なまんだぶ

三島 惠 真

住職多感

先月号、本当に失礼なことをやってしまった。原稿の締め切り日を全く勘違いしてしまったのだ。申し訳ありませんでした。今月は間違いなく締め切り日に間に合うよう原稿を仕上げます。

夏休みが始まる七月下旬から八月上旬にかけて、昔も今も最も暑い時期だ。今年もすさまじい酷暑である。

あつき日に ながるるあせは なみだかな

かきおくふでの あとぞおかしき

文明三年七月十八日付けの蓮如上人の御文章に添えられている歌である。日付は勿論旧暦である。北陸の残暑とはいえ昔も暑かっただろう。

筆を執って御文章を書いておられる。汗の一滴がポタツと落ちる。落ちたところの墨が汗にスーッと滲んでいく。その滲んでいく様を初老の上人が眺めておられる。しまったという一瞬をジツと手元

に引き寄せて妙に喜んでおられる。高校の頃から親しんだ御文章で、上人を身近に感じた章の一つである。新暦にすれば八月の下旬頃になる。

お盆の法要に毎年来て頂いている島根の小笠原宣隆師、今年はどうしても都合がつかなくなり、急遽、私が説教することとなった。三日間午前と午後の二座、合計すれば六座。オムニバスにするか連続性に重きを置くか悩むところだが、この暑さの中、脳みそは沸騰している。まあ何とかなるさくらいでの思いで、御文章を軸に語りたいたいと考えている。

年を取るということ、自らの死が愈々現実味を増す中で、蓮如上人の御文章に教わることは多いしました深い。私を感じるその一端を同行の皆に聞いてもらい、親鸞聖人の語られた、「よろずのこと みなもて 空言たわごと まことあること なきに ただ念仏のみぞ まことにておわします」の言葉を、私に届けられた言葉として同行の皆聞いて貰いたい。合掌

九月の行事

- ・三〜四日 節談小田原ツアー
- ・十二日 はじめの一步
- ・十三日 写経会
- ・十五日 草取り・寺カフエ
- ・十八日 おみがき
- ・二十一〜二十三日 彼岸会
- ・ヨガ 三、十七日

発行

浄土真宗本願寺派(西)

西光寺

〒二九〇一〇〇二四

千葉県市原市根田

七二三一一



TEL : 0436-22-7412

FAX : 0436-24-1652

HP : <https://www.saikohji.net>

MAIL : saikohji@saikohji.net